

# 松蔭タイムズ

米子松蔭高等学校  
生徒会

# マスク製造の現場に潜入取材!

## 本紙独占 被服室から聞こえるミキンの音 「今、私たちが何ができるか」部員激白

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のためにマスク需要が急速に高まっている。その結果、店頭でマスクを見かけなくなると随分と時が経った。そんな状況のなか、米子松蔭高等学校で密かにマスクが作られているとの情報が我々生徒会松蔭タイムズ取材班の耳に入ってきた。誰が何のために、どのように作っているのか。そして作られたマスクはどうなるのか、総力取材を敢行した。

今回、我々取材班は「校内某所にてマスクが密造されている」との情報を独自にキャッチ。マスクを縫う被服室だろうと見当をつけ、現場へ急行した。そこで見た光景は女子ソ

フトボール部とインターアクト部と教員有志とが自身の部活動の時間を削ってマスクを作っている姿だった。その姿に衝撃を受けた我々は、そのことを全世界に伝えるべく取材を試みた。

我々はまず女子ソフトボール部顧問の福田先生にマスクを作るに至った経緯とその心情について伺った。福田先生は「米子松蔭女子ソフトボール部は守備を重視したプレースタイルで今までやってきている。そして今、この状況下でのよう

にしたら健康・生活面で自分たちを守ることができると考えた時、守るための道具、つまりマスクを自分たちで作ることが大事なのではないかと考え、行動に移したと語られた。

次にマスク縫製の技術指導を行っている家庭科の景山先生にマスク縫製作業について伺った。景山先生によると今回のマスクの素材には「さらし」を使っているとのこと。この「さらし」は家庭科の備品だが、今回の新型コロナウイルス感染症の流行拡大、マスクの全国的不足という事態を受けて「一人のためになるなら」とマスクの材料として提供するにしようとしたという。また景山先生は、給食マスクのような二つ折りマスクの方が簡単に作ることができると、着用時の快適さや顔の形にフィット感を考え、作ることが難しいフリーツ

マスクを作ることとしたという。実際二つ折りマスクと比べると、作るのは難しく時間がかかるようだが、その甲斐あってクオリティの高いマスクができあがっているそうだ。

実際にマスクを作っている生徒にも話を伺った。インターアクト部員は「ボランティアの一環としてマスク作りに参加している。作業をしているとコロナの流行がいつまで続くのかと不安になるが、まずは自分たちが今できることを考えて行動していきたい」と気丈

## 臨時休業明け、校舎に異変が!

新型コロナウイルス感染症の流行拡大により先月、緊急事態宣言が発令された。それにもない米子松蔭高校も五月八日まで臨時休業期間となったが、臨時休業明け、校舎がきれいになったことに皆さんは気づいただろうか。臨時休業期間中、井上先生を中心とした先生方が校舎の塗装作業をされたのだ。特に生徒昇降口前トイレ、二階渡り廊下トイレの手洗い場、また各教室の壁や廊下の手すりなどが以前よりきれいになった。きれいになった校舎の状態をこの先も維持するには、一人ひとりの意識が大切である。例えば終礼後、感謝の気持ちをもち清掃作業に取り組むようにすれば、より一層校舎がきれいになるのではないだろうか。



なお、校舎の教室及び教室前廊下の塗り替え作業は臨時休業前から山本先生を中心に行われており、今後も継続する予定だ。「手伝ってみたい」という人は、山本先生に気軽に話しかけてみよう。自分の力でモノをきれいにするのが物凄く達成感が得られますよ。

## 一年生の皆さんに 部活動入部のススメ

令和二年度がスタートしてもう三か月になるとうとう今年度の始まりはいつも期待と少しばかりの不安を抱え、ばたばたするものだが、今年度は新型コロナウイルス感染症流行による臨時休業などにより特に慌ただしい年度スタートとなった。さまざまな変化が起こり、戸惑いを覚えている一年生も多いだろう。

さて、青春に欠かせない一要素として「部活動」が挙げられる。帰宅部が悪いわけではないのだが、部活動に所属することによって上級生や他校の生徒との交友関係が生まれ、あなたを取り巻く世界はより広がりを見せるのではないだろうか。また中学校まで取り組んできた部活動を継続することは素晴らしいし、高校から心機一転して新しい取り組みを始めるのはチャレンジ精神に溢れている。

部活動に所属するしないはそれぞれの自由だが、いざにしても充実した高校生活を送るための最善を考えて欲しいものである。

## 大切な人を守るために

マスクを着けることは自分自身をウイルスから守るだけでなく、自身の口からの飛沫を抑え、周りの人への感染を防ぐこともできる。今後、新型コロナウイルス感染症の終息に向けて一人ひとりの行動が大切になってくる。自分自身を守ることは大前提として、自身の周りの大切な人を守るために改めて自分の行動を見直してはどうだろうか。なお、今回作られたマスクは本校生徒、教職員のみならず近隣の幼稚園などにも配布される予定だ。

## 壁塗り(若千名)

手伝いさん募集。根気強く元気でパワーある方求む。山本先生まで。

## 種まき(若千名)

五月二十六日(火) 放課後のみ。中庭にて受付。体操服・軍手持参のこと。

## 生徒会、新プロジェクト始動

### 「福島ひまわり里親プロジェクト」で中庭美化計画

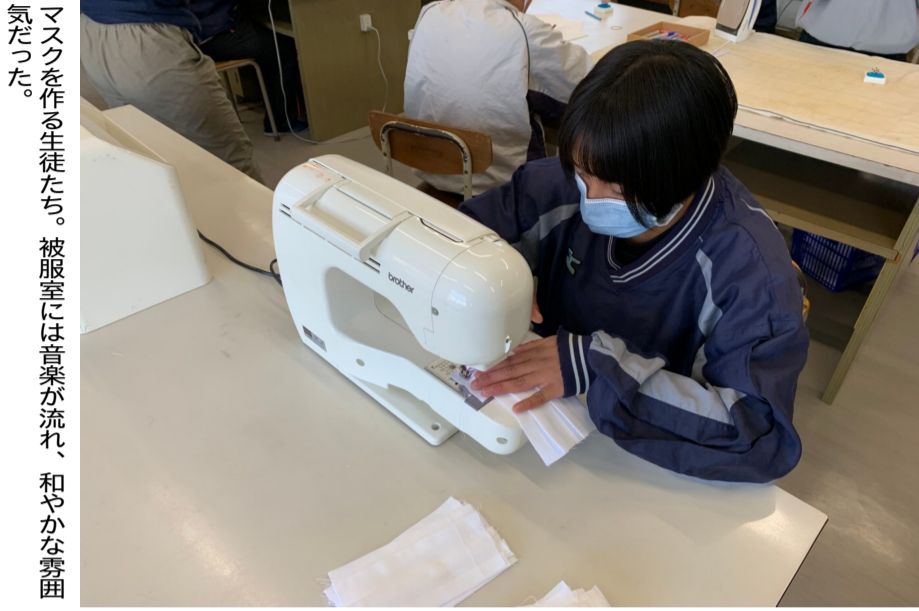
令和二年度、私たち生徒会は園芸部と合併し、植物の栽培や農耕といった新たな技術を手に入れた。そしてそこから新事業を始動することとした。それは「福島ひまわり里親プロジェクト」に参加することだ。

読者の皆さんは「福島ひまわり里親プロジェクト」をご存じだろうか。このプロジェクトは元々は二〇一一年十一月に起こった東日本大震災により仕事をなくした福島県の障がい者施設

や被災地の復興をどうにかして助けようとして起こったものである。プロジェクト内容を簡単に説明すると、このプロジェクトの趣旨に賛同する人が福島からヒマワリの種を購入する。そしてそこからヒマワリを育て、種を収穫し、その種を福島に送付する。するとそのヒマワリの種は震災復興のシンボルとして福島県内の学校などに無料配布され、育てられる。また、そこからヒマワリ油がしぼられ、そ

の油は福島県内のバスの燃料として利用される。この一連の流れのなかで雇用・教育・観光など幅広い分野にボランティアの輪が広がる。つまりこの「福島ひまわり里親プロジェクト」に参加することで私たちは、私たちの放置されていた中庭を美しくしつつ、東日本大震災で傷ついた福島県の復興の手助けができるという一石二鳥の効果を得られるのである。

また生徒の皆さんには学校を盛り上げる意見やアイデアを持っていただければ、些細なものでもよいので生徒会に教えてほしい。実現可能かどうか生徒会で検討したいと思う。全校生徒一丸となって米子松蔭高校の発展を求めていこう。



マスクを作る生徒たち。被服室には音楽が流れ、和やかな雰囲気があった。